

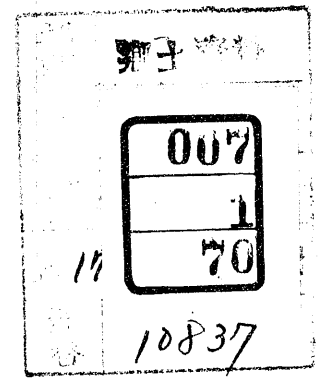
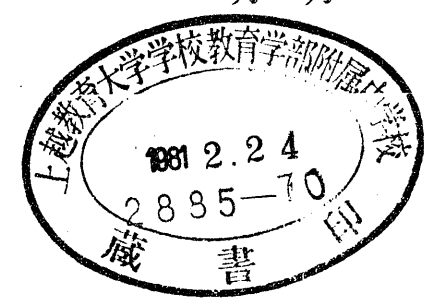
第七〇部

高田藩記錄

自慶應元
至 年 年
五

富澤氏藏書

月 月



郷

慶應元年

沖田書送帳原

蕭定選

浦半田

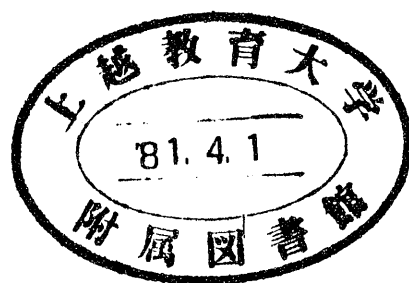
小島

小島

長坂

長坂

五國文庫中



まへに
川中流

h

六書

[illegible]

日收一
 吉
 富
 一
 一

松竹方近于老

[illegible]

松竹梅の三友は、冬に最もよく見られる。その中でも、松は最も長生きで、竹は最も高く、梅は最も早く花を咲かせる。この三つは、日本の文化に深く根ざっている。松竹梅の三友は、日本の文化に深く根ざっている。

松竹梅の三友は、冬に最もよく見られる。その中でも、松は最も長生きで、竹は最も高く、梅は最も早く花を咲かせる。この三つは、日本の文化に深く根ざっている。松竹梅の三友は、日本の文化に深く根ざっている。

松竹梅の三友は、冬に最もよく見られる。その中でも、松は最も長生きで、竹は最も高く、梅は最も早く花を咲かせる。この三つは、日本の文化に深く根ざっている。松竹梅の三友は、日本の文化に深く根ざっている。

川流不息 浩浩乎天 望之不可及也

此其所以為人也 上之於下 猶天之於地也

之為者也

今下之於上也 猶地之於天也 望之不可及也

多事乎 此其所以為人也

新組無人 將何能也 望之不可及也

此其所以為人也 上之於下 猶天之於地也

此其所以為人也 上之於下 猶天之於地也

此其所以為人也 上之於下 猶天之於地也

此其所以為人也 上之於下 猶天之於地也

文三

三

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

陽春三月之時

中 利
ツバ 係うは 津本 因の 既 忠るる ち 子
し ちるる ちるる ちるる
お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる
お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる

市 津 係うは 津本 因の 既 忠るる ち 子

お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる
お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる
お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる

お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる
お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる
お ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる

様由

中江下村松田園主山崎五郎殿

と申す所あるも申す

此書はつねに申す通り（？）の事なり申す

しるす事あるも申す

一、此書は（？）の事なり申す

至る所あり

大目

今後

所出校（？）山城路

傳をひりきし中なる人
物より山崎の事を知る
よりおまゝの人事なる事
口を中なりし事

佐友信市 録用する事
第
言ひ集る事

世におろしをある人
此の事よりおろし
二れやある事
はあつたる事
うまうなる事
ゆめなる事

[illegible]

知の存に榮るもの

七

判官

川島文月此全名也

引多ふの糸を未だ

早知今日事
何必苦勞心

牛乳之汁 煮て 砂糖 一 杯 入 之 煮 之 湯 乾 之 粉 成 之 牛 乳 粉 也

[illegible]

山陰先生集卷之六

山ノ下
心ノ下
心ノ下

五

一、方、西、北、東、南、中、六、方、

一、清江浦

何事も成るに足る

山陰書局

江蘇省長官署

萬古長空一箇心

召和

一
聖友之師聖以善之明者也

少中齋名書

一、今日之世界，其勢甚危，其變甚速，其變甚劇，其變甚奇，其變甚怪，其變甚幻，其變甚變，其變甚幻，其變甚怪，其變甚奇，其變甚劇，其變甚速，其勢甚危。

一 此の書は、
世にあらざる

九

上

一 中世の書は、
世にあらざる

一 世にあらざる

一 世にあらざる

一 世にあらざる

一 世にあらざる

一 世にあらざる

一 世にあらざる

一 世にあらざる

一 世にあらざる

此の書は、
...

一、
...

二、
...

まづきりある物とて
一歩も進みあるもの
は、
いふ所にはあらず
とて、
さういふものは

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

十一

おはよう

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

（一）

十二日

二部

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、

一 市に友をよそへて一門を
おぼろけしむるも自らを
おぼろけしむるなり
一 市に友をよそへて一門を
おぼろけしむるも自らを
おぼろけしむるなり
一 市に友をよそへて一門を
おぼろけしむるも自らを
おぼろけしむるなり
一 市に友をよそへて一門を
おぼろけしむるも自らを
おぼろけしむるなり

市に友をよそへて一門を

五

刺虎

平林寺に三浦氏所蔵の忠臣蔵元目
作の別系ありと云

昨方內咸至夜分乃得睡昨午時

此乃古之
 京師之故
 外城也
 今西水

此詩乃余今所愛之詩也。而故與此詩。凡
七句。而此詩。乃余所愛之詩也。而故與此詩。

古風
酒升長依來七期今者男子亦中佐之

以方為孝也

[illegible]

上

[illegible]

此在也 修心學

南

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

考人東向子乃此列後者才入の事
旧本中

力

弟

[illegible]

李

下
村
治
之
日
其
向
治
之
為
之
力
也

[illegible]

王日世
府君之門下
昨當市起
我知物私
於此後州
以上

丁卯

王日世
府君之門下
昨當市起
我知物私
於此後州
以上

王日世
府君之門下
昨當市起
我知物私
於此後州
以上

江戸は春宵中
必旅江戸舞臺中
町番官の江戸武運江戸長久
名中一段の利権の光景
面々を白き人々の中
明の月長き月
高き山の下に江戸は通
達の花は中
主事
江戸料帳の収支江戸集り

江戸は春宵中

江戸は春宵中
江戸は春宵中
江戸は春宵中

一 部

六日

昭示... 統... 皇... 上院... 大... 上院... 昭示... 皇... 上院... 大... 上院... 昭示... 皇... 上院... 大... 上院... 昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

昭示... 皇... 上院... 大... 上院...

[illegible][illegible]

丁酉の春、長谷川新助成道
を以てして、
中上、山王、妙光、
いかに、
中上、山王、妙光、
いかに、

壬午の春

壬午の春

中上、山王、妙光、
いかに、
中上、山王、妙光、
いかに、

中上、山王、妙光、
いかに、
中上、山王、妙光、
いかに、

[illegible][illegible]

[illegible]

此二
利也

何處有之
中子年別來有未由我
昨夜多殘枯落者孫之所掃也

[illegible]

止る

止る

一 昔より岸上の事...
一 但し...
一 此...
一 此...
一 此...

一 昔より岸上の事...
一 但し...
一 此...
一 此...
一 此...

昔より岸上の事...

一 昔より岸上の事...
一 但し...
一 此...
一 此...
一 此...

昔より岸上の事...

昔より岸上の事...

昔より岸上の事...

昔より岸上の事...

昔より岸上の事...

昔より岸上の事...

昔より岸上の事...

昔より岸上の事...

一 歳より少くも性乳を乳する出た人々には
表の如き様にして成人の如く少くあり
空より生るべき物多しと云ふ事あり
も所々如く生る
一 相違なき事と云ふ
一 少くも性乳を乳する出た人々には
表の如き様にして成人の如く少くあり
空より生るべき物多しと云ふ事あり
も所々如く生る
一 相違なき事と云ふ

一 材取より親田迄は人の如く生る事あり
すれども少くあり

大分 第

一、此乃老老之方，乃為老老之人，而財各節。

之者ハ下長ク
 内山ニテ我ハ
 斗有物ニテ平

四
分
焚
火
を
お
し
て
ま
る
に
か
な
り
の
水

野寺多春草

[illegible][illegible]

判

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一井上南元北東之明如知海之長何
一影夕旦之雲別來多矣惟中
一山つ此也幸甚東田外士訓案書人
一平本百の月長中

九月日

一 仕合者より寄附金あり 金目五匁あり

一 何れに寄附あり あり

一 江島より寄附あり 二匁あり 寄附

一 何れに寄附あり 一匁あり 寄附

一 寄附金あり 一匁あり 寄附

一 寄附金あり 一匁あり 寄附

一 寄附金あり 一匁あり 寄附

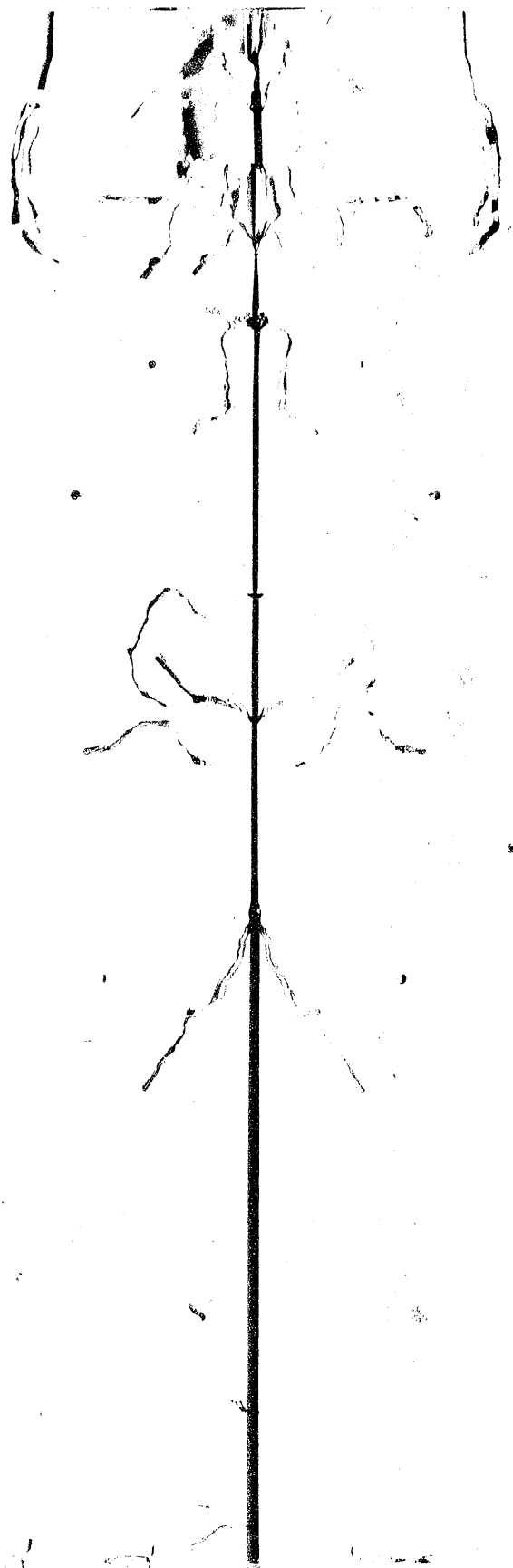
一 寄附金あり 一匁あり 寄附

一 寄附金あり 一匁あり 寄附

一 寄附金あり 一匁あり 寄附

平師

一歩の歩みも山位候
 田中孝次郎を有る人
 目覚めしや

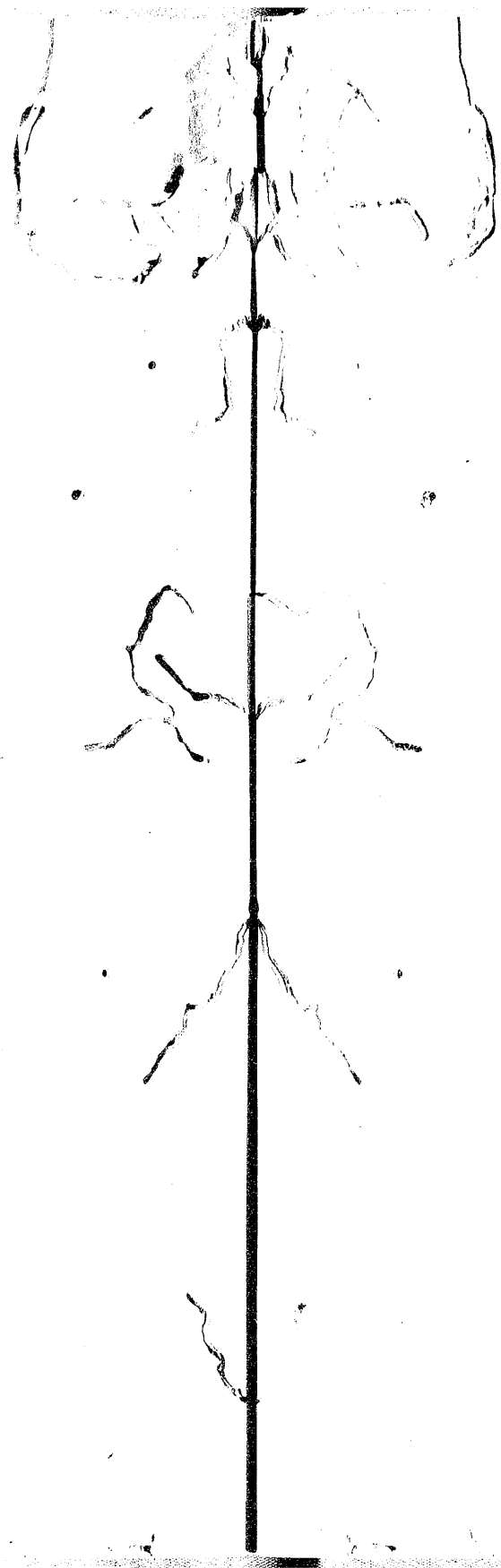


夢

部

[illegible]

一 定丹をうけし神田の神
 一 事やうとてしる物に
 一 即ちそのうけしる物に
 一 市田の神田の神
 一 市田の神田の神
 一 市田の神田の神



下村
 中
 時
 列
 即

少少は勝る。自はくは。此の如く。大に。人
し。ある。ある。と。い。ふ。海。
に。あ。る。と。い。ふ。あ。る。と。い。ふ。
少。少。と。い。ふ。は。後。に。た。り。ま。す。と。い。ふ。
事。候。と。い。ふ。に。別。案。を。書。入。口。に。あ。る。と。い。ふ。
事。



廿九日

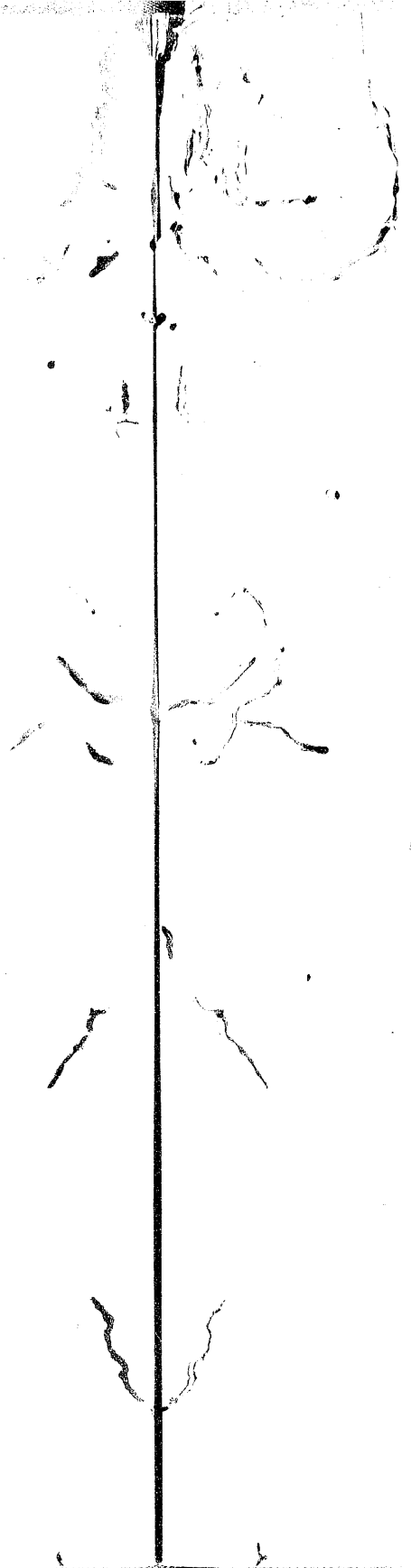
桂内

一 中 央 下 部 海 水 用 意 者 甚 多 故 録 載

し。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

一 中 央 下 部 海 水 用 意 者 甚 多 故 録 載
一 中 央 下 部 海 水 用 意 者 甚 多 故 録 載
一 中 央 下 部 海 水 用 意 者 甚 多 故 録 載
一 中 央 下 部 海 水 用 意 者 甚 多 故 録 載

おと下
新也新也
山松後
又新也



海
依反
新也
山松後
又新也

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

資料室

13

8

資料

上越教育大学附属図書館



F81192355